

213年前から酒どころを照らしてきた灯台が、創建の地を離れた。国内で現役最古の木造灯台として知られる今津灯台（西宮市今津西浜町）の移設工事が1日、ヤマ場を迎えた。クレーンでつり上げて台船に載せ、対岸（同市今津真砂町）まで水上輸送された後、本来の移設先まで約25㍍のところにある仮置き場に据えられた。（山岸洋介）

西宮 作業は満潮の時間を選んで早朝から行われた。潮が満ちていれば台船が陸に接近でき、クレーンのブーム（さお）を垂直に近い角度で保つことで、転倒のリスクを減らせるためだ。県の工事担当者は「万が一にも損傷させられない」と緊張感をにじませた。

今津灯台は市の重要有形文化財で、酒どころ「灘五郷」の歩みを伝える日本遺産の構成文化財でもある。灯台移設という異例の工事は、文化財の価値を守るためできるだけ解体せず、安全性にも細心の注意を払って計画された。

前日までに側面の「はかま板」が一部外され、水平に通した木材で支柱をがっちり固定。石の基壇と木造部の間には、つり上げ用の鋼材を通した。

午前7時半ごろ、沖合から台船が入港した。作業員がワイヤを鋼材に通し終え、クレーンがゆっくりと作動。7時47分、引き上げられた灯台が石の基壇だけを地面に残し、宙に浮かんだ。歴史的な瞬間を見守っ

ていた住民からは「おおー」と声が漏れていた。クレーンは90度旋回し、灯台が台船へそりと着地。台船は津波対策で建てられた巨大な水門をくぐり、対岸まで移動した。再びつり上げられた重さ約3㍍の灯台は午前9時ごろ、コンクリート舗装された仮置き場へ静かに降ろされた。

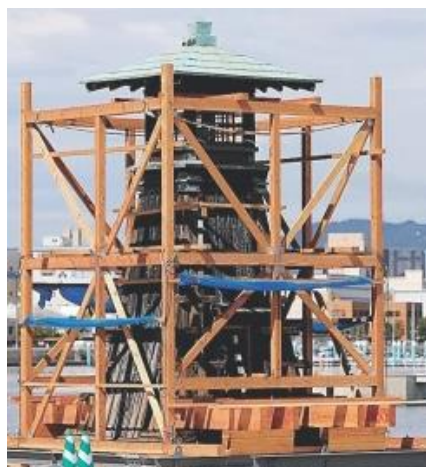
風も波もほとんどない好天に恵まれ、作業は予定より大幅に早く終了。今後は石の基壇を新たな設置場所へ移し、11月初旬ごろ、その上に今回運んだ木造部を再設置して完了する。

県尼崎港管理事務所の古家寛之河川整備課長は「ほっとした」としつつ、台風シーズンを念頭に「風雨からしっかり守り、再設置に備えたい」。市文化財課の東原直明学芸員は「綿密な計画と準備のおかげで、地域のシンボルを未来に伝える一歩を刻むことができた」と話した。

元の場所と移設先は直線距離で約160㍍。灯台は来年2月に再び点灯され、引き続き航路標識として使われる。

左の記事を読んで下の問いに答えましょう。

- 傍線部にあるように、今津灯台は213年前の1810年に大関酒造の部長兵衛が建設し、現存する物は1858年に文次郎が再建したものです（2023. 8. 11付神戸新聞阪神版）。ちなみに1858年はアメリカとの不平等な条約が締結された年ですが、その条約名を漢字で書きましょう。
- 今津灯台は灘の酒を運ぶ船の安全のために建てられましたが、酒を運ぶための専用船を当時は何と呼んでいましたか。漢字3文字で書きましょう。
- 今津灯台は日本遺産「伊丹諸白と灘の生一本」に含まれています。日本遺産とは文化庁が指定する「地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語る〇〇〇〇のこと」ですが、〇に入る5文字のカタカナを書きましょう。
- 移設は〇〇〇〇〇〇〇〇によって起こる津波対策の工事に伴い、灯台が現在ある場所に水路ができるため行われます。〇に入る言葉を7文字で書きましょう。



NIEワークシート
中～高校

1

--

2

--	--	--

3

--	--	--	--	--

4

--	--	--	--	--	--	--

* 解答は次ページ

NIEワークシートのこたえ（2023年9月7日公開）

◆ワークシート「今津灯台の移設(社会)」
2023.9.2付 朝刊 阪神 解答

- 1 日米修好通商条約
- 2 樽廻船
- 3 ストーリー
- 4 南海トラフ地震